

苗への低温処理がイチゴ「熊研い548」の出蕾時期に及ぼす影響

○木場達美・岩本英伸・吉田耕起・森田敏雅¹⁾

(熊本農研せい業・¹⁾熊本農研セ)

【目的】

本県で育成した「熊研い548」は「とよのか」と比較してポット育苗での頂花房の花芽分化時期が遅い傾向にあり、出蕾時期および収穫開始時期がやや遅い。そこで、低温処理が出蕾時期に及ぼす影響について検討を行った。

【材料および方法】

試験は熊本県農業研究センターい業研究所で行い、「熊研い548」および「さちのか」を供試した。育苗は10.5cmポットで行い、畦幅120cm、株間25cm、2条植え(栽植密度667株/a)で定植した。対照は普通ポット育苗とした。本圃のビニル被覆は10月28日から10月31日に行った。試験規模は1区20株(3.0m²)2反復とし、頂花房の出蕾日について調査した。

①試験1 低温暗黒処理の検討(2003年)

低温暗黒処理区は9月4日から13℃で処理し、「熊研い548」は9月19日に、「さちのか」は9月16日に処理終了と同時に未分化の苗を定植した。普通ポット区は花芽分化確認後「熊研い548」は9月26日に、「さちのか」は9月24日に定植した。最終追肥日は低温暗黒処理区が8月4日、普通ポット区が8月11日とした。

②試験2 短日夜冷処理の検討(2004年)

短日夜冷処理区は両品種とも8月16日から9月13日まで13℃、8時間日長(午前9時出庫、午後5時入庫)で処理し、花芽分化確認後9月13日に定植した。普通ポット区も両品種ともに花芽

分化確認後9月27日に定植した。最終追肥日は短日夜冷処理区が8月2日、普通ポット区が8月15日とした。

【結果および考察】

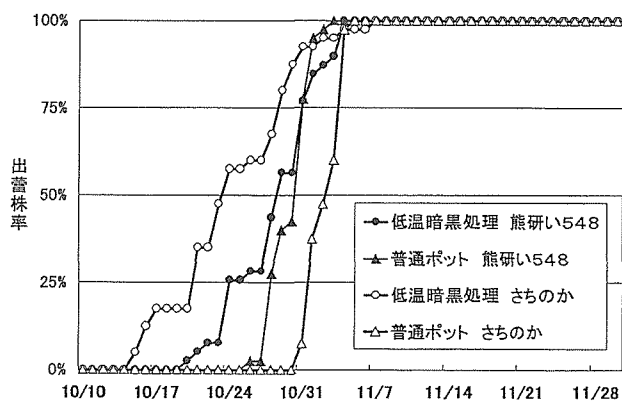
①試験1 低温暗黒処理の検討(2003年)

「さちのか」では低温暗黒処理によって約60%の株が普通ポット区の平均出蕾日より18日から7日早く出蕾し、残りの株も普通ポット区の出蕾期までに出蕾した。平均出蕾日は低温暗黒処理区が普通ポット区より9日早かった。これに対し「熊研い548」では低温暗黒処理によって約25%の株が普通ポット区の平均出蕾日より10日から6日早く出蕾したが、残りの株は普通ポット区の出蕾期と同時期であった。平均出蕾日では2日しか早進化しなかった(第1図)。

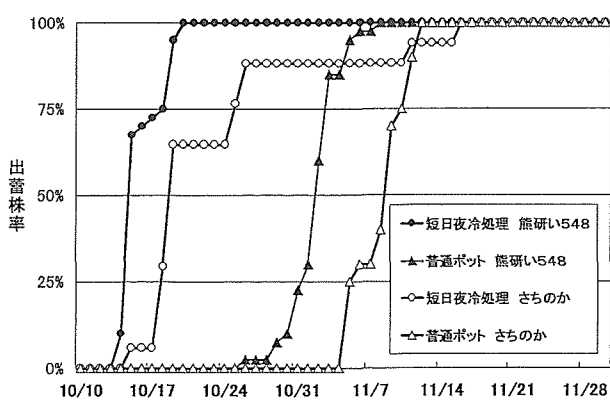
②試験2 短日夜冷処理の検討(2004年)

「熊研い548」では100%、「さちのか」では90%の株で短日夜冷処理により出蕾時期が早まった。平均出蕾日は「熊研い548」が17日、「さちのか」が16日普通ポット区よりも早かった(第2図)。

以上の結果より「熊研い548」の花芽分化は、短日夜冷処理によって誘導され頂花房の出蕾時期が早まることが確認され、それにより収穫開始時期の前進化および年内収量の増加が見込まれる。しかし、従来の品種で実施されてきた低温暗黒処理の方法では、出蕾時期の明確な前進化は見られず「熊研い548」にあった低温暗黒処理法について検討が必要であると考えられた。



第1図 低温暗黒処理区および普通ポット区における頂花房出蕾株率の推移(試験1)



第2図 短日夜冷処理区および普通ポット区における頂花房出蕾株率の推移(試験2)